

Check1 「基礎学力対策」は必要？

メリット

- 初歩から学べる
- 早めに着手できる
- 「一般教養対策」の学習がスムーズになる。

国語・
言語

4回

地理・
歴史

8回

政治・
経済

10回

算数・
数学

8回

自然科学
入門
(物理・化学
生物・地学)

10回

A B C のいずれかに該当する方におすすめです。

A 「一般教養」が出題される自治体を受験する方

以下の表は各自治体における一般教養の出題有無の一覧です。出題する自治体においては、一般的に5教科型と多教科型があり、5教科型では、国語、社会、数学、理科、英語が出題され、多教科型では、5教科に加え、芸術、保体、情報、ローカル問題等が加わります。自治体によって傾向が異なりますので、まずは過去問でその傾向を知ることが大切です。

自治体 ^{※1}	有無
北海道エリア	○
青森県	○
岩手県	×
宮城エリア	○
秋田県	○ ^{※2}
山形県	○
福島県	×
茨城県	○
栃木県	○
群馬県	○
埼玉エリア	○

自治体 ^{※1}	有無
千葉エリア	×
東京都	×
神奈川エリア	○
新潟エリア	○
富山県	○
石川県	○
福井県	○
山梨県	○
長野県	○
岐阜県	×
静岡エリア	○

自治体 ^{※1}	有無
愛知県	○
名古屋市	○
三重県	○
滋賀県	○
京都府	○
京都市	○
大阪エリア	△ ^{※4}
兵庫県	○
神戸市	○
奈良エリア	×
和歌山県	○

自治体 ^{※1}	有無
鳥取県	○
島根県	○
岡山県	×
岡山市	○
広島エリア	×
山口県	×
徳島県	○
香川県	○
愛媛県	○
高知県	×
福岡エリア ^{※8}	○

自治体 ^{※1}	有無
福岡市	○
佐賀県	○
長崎県	○
熊本エリア	×
大分県	○
宮崎県	×
鹿児島県	○
沖縄県	○

(2017年実施試験)

※1 募集を合同で行う自治体、及び募集を別に行うが問題は同じである自治体は、「エリア」としてまとめて表記。 ※2 新聞の社説が題材として出題され、それに関連する各教科知識が必要となる。 ※3 国語、英語、ローカルを出題。得点配分、難易度ともにあまり高くなく、便宜的に対策不要としている。 ※4 数的処理・文章理解を出題。他自治体の教員採用試験における一般教養の出題傾向とは異なるためTACの選択科目「一般教養」は受講不要。 ※5 時事・ローカルに限られる。 ※6 時事・ローカルに限られる。 ※7 時事に限られる。 ※8 福岡県、北九州市。

B 「小学校全科」を受験する方

基礎学力対策は、専門教養（小学校全科）の対策としても有効です。

基礎学力対策	小学校全科 該当教科
国語・言語	▶ 国 語
地理・歴史	▶ 社 会
政治・経済	▶ 社 会
算数・数学	▶ 算 数
自然科学入門	▶ 理 科

C 教員になるにあたり、一般教養を常識としてひと通りおさえておきたい方